

■知内町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:17人）（中学校数:1校、生徒数:26人）

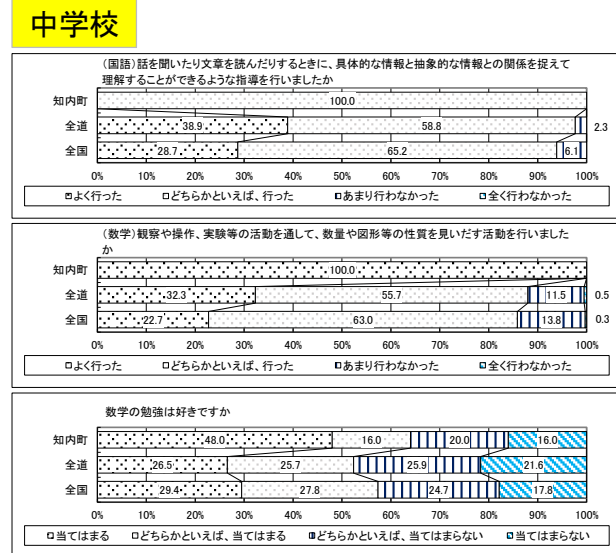
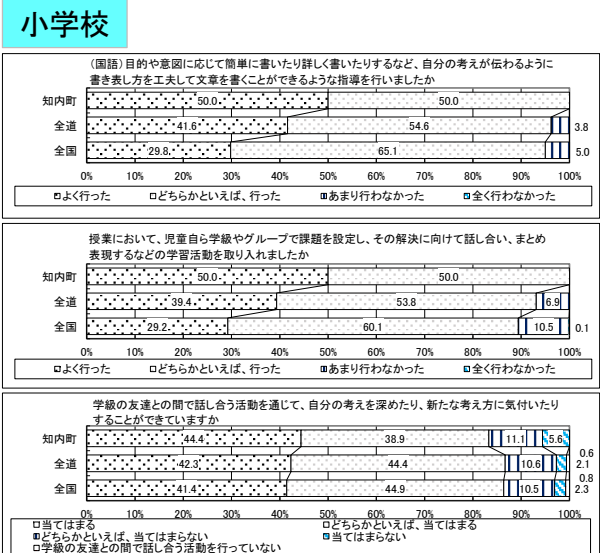
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	53	53
算数・数学	50	47



【質問調査の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行ったことにより、児童の学習内容の理解が深まり、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全道を上回ったと考えられる。

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の「情報の扱いに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の勉強は好きと肯定的な回答をする生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【知内町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校9年間を通じた教育課程の編成、小・中学校教員による相互乗り入れ指導や児童生徒の交流学習等の充実
- ◎ ICT支援員を活用したプログラミング教育やデジタル教科書を使った授業改善の推進
- ◎ 英語教育推進協議会を中心とした、乗り入れ指導や指導方法の工夫、改善等の一貫した指導体制の推進